

〔科目名〕 名著講読演習		〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目		
〔担当者〕 大森 史博				〔授業の方法〕 演習		
〔演習テーマ〕 哲学とは何か、哲学の古典的名著の読解、哲学入門						
〔演習内容〕 <p>哲学とは何か。文献を丹念にねばり強く読み解くことを基本として、ともに対話をかさね、思索を深めたい。人間の存在、時間的なあり方、世界の存在、および関連する哲学の問題群、諸概念をめぐり、参加者それぞれの関心に依じて事象に対する焦点を見定め、探求をすすめる。</p> <p>問い、存在、生、自己、身体、知覚、他者、時間、瞬間、永遠、美、言語、等々が鍵となる概念である。</p> <p>哲学の思考は通常きわめて抽象的な水準を動いていると思われる。しかし、この演習でおこなおうとするのは、感覚を研ぎ澄ませて言葉の繊細なニュアンスに分け入ることであり、抽象的と思われる諸概念を、自らが生きる経験の場において捉えなおすことである。こうした思考の実践をとおして、哲学という営為の核心に迫る。</p>						
〔科目の到達目標〕 <p>テキストを精読することにより、哲学者の思想、主要な概念、核心にある問いを知る。その問いかけ、思想や概念をふまえ、自らが考えるべき問いを吟味し、仕上げ、提起することができる。</p>						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○	○			
〔前提条件〕 <p>経験の事象に立ち戻り、探求的に思考し、他者に問いかけ、表現する努力をつづけること。</p>						
〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) <p>テキスト読解の事前準備、授業における質疑応答、レポート課題。評価の方法に関しては、とりあげる思想や概念および問題設定の精確な理解、考察の掘り下げ、言語的表現という三つの観点を基本として測る。</p>						
〔教科書等〕 <p>デカルト『方法序説』(邦訳書が複数ある。)</p> <p>ベルクソン『思想と動くもの』(邦訳書が複数ある。)</p> <p>メルロ=ポンティ『知覚の現象学』(邦訳書が複数ある。)</p> <p>その他、授業のなかで紹介する。</p>						
〔実務経歴〕 <p>該当なし</p>						
授業スケジュール						
時期	テーマと内容					
春学期 前半	生の哲学や実存主義に関する論考のなかからテキストを選定し、精読する。その読解をふまえて質疑応答をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。					
春学期 後半	哲学系演習科目の他年次の履修者とともに合同の研究会をおこなう。参加者の各々は自分の問いを示して吟味し、相互に探求的な哲学対話を試みる。					

秋学期 前半	現象学や構造主義に関する論考をテキストとして、精読する。その読解をふまえて質疑応答や哲学対話をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。
秋学期 後半	ひきつづき、文献を精読し、質疑応答をおこない、考察を深める。一年間の講読をとおして焦点化してきた問いをめぐり、参加者の各々はレポートの作成を準備する。